

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01199

研究課題名(和文) 米国メキシカン・コミュニティにおける共創的社会景観に関する学際的研究

研究課題名(英文) Interdisciplinary Research on Co-creative Social Landscapes in Mexican Communities in the United States

研究代表者

牧野 冬生 (Makino, Fuyuki)

東洋大学・国際学部・教授

研究者番号：50434387

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、墨米移民がメキシコと米国を頻繁に往復する中で居住空間・社会空間の双方に作り上げる、「想像的伝統」と「創作的伝統」の具体的な形成としての文化実践「共創的社会景観」に着目した。米国における墨米移民の想像的伝統(Imaginative Traditions)は世代によって大きく異なり、1世は故郷の実体験をノスタルジーから想起させるが、2世以降は家族間やコミュニティ間による伝統継承の差異によって、その表出に大きな違いがある。こうした点を意識しながら、分析の方向性として社会景観の4形態(持続的景観、定期的景観、一時的景観、動的景観)を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では短期の現在の文化変容と長期の景観分析の両面を捉えるために、学際的な研究手法を採用した点が特徴である。本研究における文化人類学、建築学、移民研究という3つの学問領域を組み合わせた研究アプローチにより、メキシコの故郷との具体的な交流によって生み出される観光的空間とローカルな生活空間(建築学の側面)と、観光的空間で実施される生きている社会空間(文化人類学の側面)が分析できる。本研究は、学際的アプローチとしての景観分析手法の提示であり、学術的・社会的意義の高い研究といえる。

研究成果の概要(英文)：In this study, I focused on "Co-creative Social Landscapes" as a concrete formation of "Imaginative Tradition" and "Creative Tradition". It has been created in both residential and social spaces by immigrants from Mexico, who frequently travel back and forth between Mexico and the United States. Imaginative traditions of Mexican immigrants in the United States vary greatly by generation. First-generation immigrants evoke nostalgia for their hometown experiences, but second-generation immigrants and later have significant differences in their expression due to differences in the inheritance of traditions between families and communities. With these points in mind, I presented four types of social landscapes (sustainable landscapes, periodic landscapes, temporary landscapes, and dynamic landscapes) as directions for analysis.

研究分野：文化人類学

キーワード：墨米移民 想像的伝統 創作的伝統 共創的社会景観 メキシカン・コミュニティ

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初の背景は以下の通りである。本研究は、研究代表者が墨米移民に対して実施してきた既存研究が背景にある。既存研究では、メキシコの地方都市の住宅変容に焦点を絞り、伝統性を逸脱しながら急速に変容している都市中心部と郊外を調査対象としてきた。具体的には、都市中心部の墨米移民向け観光型開発と、外資系企業の誘致に伴う都市郊外の国内移民向け大規模団地開発に着目していた。現地でのフィールドワークでは、開発初期の1960年代後半から第二改革期の2010年以降まで、誘致活動、団地建設、住居デザインの変容実態を把握した。その過程で「定期的な異動を繰り返す移民」や「米国で定住して故郷の人々を受け入れる移民」等の様々なタイプの移民が、情報機器を活用して伝統社会と緊密な連絡を取り合う中で米国で実践する独自の文化活動やコミュニティの存在を確認した。そうした調査結果を基底に、米国における墨米コミュニティの中で実施されている文化的実践と現実空間の再構築がどのような形で可視化され社会景観として表出しているかという問題意識が明確化された。

### 2. 研究の目的

本研究は、メキシコと米国を頻繁に往復する墨米移民独自の“旅的”居住観を通して、メキシコ伝統社会との往還の中で米国内のメキシカン・コミュニティで表出する「共創的社会景観」を提示することを目的としていた。「共創的社会景観」とは、米国に居住する墨米移民が抱えるメキシカン・アイデンティティの源泉としての想像的伝統が、伝統的社会（故郷）との頻繁な接触により変容し、また伝統的社会から移民社会への戦略的な伝統復興政策も相まって、双方の混在性から形づくられる米国での文化的実践と現実空間の再構築の両方を含むものである。本研究では、以下の3つの問題系を明らかにした。

- 1) 米国在住移民の複数世代間における「伝統の継承」と、米国における想像的伝統の変容
- 2) 継承された伝統の発露としての墨米コミュニティにおける文化実践と居住空間の構築
- 3) メキシコ地方都市の伝統的景観と米国の墨米コミュニティの比較と共創的社会景観の提示

### 3. 研究の方法

本研究は3年計画で展開し上記の3つの問題系を明らかにする計画を立てていた。しかし、2019年度後半からコロナウイルスの影響により現地フィールドワーク調査の実施が困難となり、二度の研究延長を実施した。そのため一部調査を、文献資料の精査とZOOMによる遠隔インタビュー等に切り替えて遂行した。

2017年度の事前調査では、メキシコ地方都市でのフィールドワークを実施し、本研究で対象となる米国に在住する移民について把握していた。研究の初年度である2018年度は、事前調査を踏まえてメキシコ南部のオアハカ州、首都のメキシコシティ、北部のヌエボ・レオン州モンテレイ周辺の地方都市でフィールドワークを実施した。複数の都市における綿密なフィールドワークによって、3つの問題系における論点を再整理し、問題点を抽出した。2年目の2019年度は、各テーマの議論を一層深化させると共に、メキシコで綿密なフィールドワークを実施した。また、インフォーマントへのフィードバックを実施しながら、各問題系に対して相互批判的な考察を行った。3-4年目の2020-2021年度については、コロナウイルスの影響によりフィールドワークが現地で実施できない中で、研究課題に関連する文献調査、それまでのフィールドワークの精査、ZOOMによる遠隔インタビューの実施に取り組んだ。最終年度の2022年度は、研究成果の作成に重点を置くと共に、各テーマとの整合性を再検討しながら「共創的社会景観」の理論化に取り組んだ。それまでの4年間に明らかになった問題点を踏まえて、補助事業の目的をより具体的に達成させることを目指した。また、2023年度は学術論文誌への投稿準備も行った。

具体的には研究テーマごとに、下記の方法により研究を進めた。

- (1) 「米国在住移民の複数世代間における「伝統の継承」と、米国における想像的伝統の変容」について

初年度は、複数家族へのインタビュー調査を実施し、「いつ・どういう立場で移民したか」によって変化する伝統継承の差異を中心に把握するように努めた。2年目は、メキシコシティに居住する複数世帯、単身世帯へのインタビュー調査を実施することができた。調査では、異なる世代間により伝統継承の差異がどのように発生するのか把握するように努めた。3-4年目は、コロナウイルスの影響もありフィールド調査が制限されたため、これまでのインタビュー調査結果を整理した。そこでは、出稼ぎの時期や世代により発生する伝統継承の差異を確認することができた。

- (2) 「継承された伝統の発露としての墨米コミュニティにおける文化実践と居住空間の構築」について

初年度は、複数の家に住み込むことによって伝統性が継承される際の空間的特徴の把握を行った。参与観察により、ライフヒストリーによって異なる空間性が重層する現状を把握できた。2年目は、実際の移民家族の居住スペースおよび社会空間を把握することで、伝統の発露の場としての空間的特徴を把握した。3-4年目は、フィールド調査が制限されたため、これまでの調査で実施した資料に基づいて実際の移民家族の居住スペースおよび社会空間を精査した。また、

メキシコの故郷の伝統の発露の場としての具体的空間について考察した。

(3)「メキシコ地方都市の伝統的景観と米国の墨ココミュニティの比較と共創的社会景観の提示」について

初年度のフィールドワークは、メキシコ地方都市の伝統的景観とその変化を再確認できた。またインタビュー調査は、「米国における墨ココミュニティの比較」と「共創的社会景観の提示」を推進していくための一次資料の形成につなげることができた。2年目は、上記のフィールドワークの成果を精査することで、理論化の一次資料を蓄積することができた。3-4年目は、資料を再度見直すことで、理論化の道筋について確認できた。

最終年度である2022年度は、上記の(1)(2)(3)を総合し、且つ追加の遠隔インタビュー調査・文献調査の成果をまとめ、米国メキシカン・コミュニティの居住空間と社会空間に創出される「共創的社会景観」の理論化に努めた。また、学術論文誌への投稿を行い、研究成果の公表を目指した。

#### 4. 研究成果

研究成果は以下の通りである。

(1)米国在住移民の複数世代間における「伝統の継承」と、米国における想像的伝統の変容について

「いつ・どういう立場で移民したか」によって、複数世代間における「伝統継承」の実態については、その認識が大きく異なっている。また、移民第一世代、その子供、さらに米国生まれの両親を持つ子供の世代という3世代によっても、ルーツ・伝統性への認識に大きな差異がある。墨米移民（不法移民を含む）の内、米国生まれの次世代と16歳までにアメリカにきた不法移民の子供(DACA)は合法であり、米国国籍を保持しながら各自のルーツ（故郷）探索を含む観光的帰郷の担い手となる。インタビューによると、移民第一世代の子供にとってルーツ（故郷）は、両親からの直接的なノスタルジーの継承を含んでいる。しかし、3世代目に関しては、より観光的で第三者的な視点を保持することが顕著になってくる。ここで重要となるのが、伝統的社会と接触しながら米国の現実的な生活空間と社会空間を作っていく家族のライフヒストリーとコミュニティである。その個別の生活史によって多くの異なる想像的伝統が存在する。

(2)継承された伝統の発露としての墨ココミュニティにおける文化実践と居住空間の構築について

短期的な墨米移民は、故郷の伝統的行事（聖母被昇天祭、カーニバル、フェスティバル等）の時期には帰郷して儀礼に参加する者が多い。また、多くの次世代移民（メキシコ系アメリカ人）も上の世代と共に継続的で頻繁な一時帰郷を実施している。メキシコに帰省した墨米移民と故郷との紐帯関係やメキシコ国内で移民向けに解放された儀礼の認識が、米国の墨ココミュニティにおける文化実践と居住空間の基礎にある。米国のメキシカン・コミュニティに主眼を置くと、墨米移民の生活の現場である米国社会で引き継がれた伝統の発露としては、宗教的行事、経済的行事、娯楽的行事と大きく3つに分類できる。宗教的行事は、主に移民第一世代とその子供たちによって継承されてきた。カトリック教会を軸としながら、時に故郷で実施されていた「聖母被昇天祭」の聖母マリアがカリフォルニアに運ばれたこともある。一方で、経済的行事、娯楽的行事としてはスポーツ等の交流会が米国のメキシカン・コミュニティと故郷の人々つなぐ重要な行事となっている事例も見られる。同時に、米国に存在するメキシカン・コミュニティへ故郷の伝統社会から住民が訪問する新たな観光、言わばリバース観光が重要な位置付けとなっている。こうした新しいメキシコ系同士の往還の中で、伝統的儀礼だけでなく経済的行事、娯楽的行事が米国社会に根付き、具体的に社会的・物理的な空間変容を起こしている。

(3)米国の墨米移民の生活コミュニティの分析モデル：共創的社会景観の提示について

上記の問題系(1)(2)においては、伝統の発露として社会生活に埋め込まれた米国における文化実践のプロセスを把握できた。そこでは、目に見える物理空間だけでなく、ある時期や時間により出現する一時的で仮説的な儀礼空間、さらに情報機器の発展によって繋がる不可視的な社会空間も存在していた。こうした新たに得られた米国のメキシカン・コミュニティの知見とメキシコ地方都市の伝統性景観の変容（メキシコ北部ハリスコ州とヌエボ・レオン州が対象地域）を組み合わせて比較することで分析モデルの構築を目指した。米国におけるメキシカン・コミュニティは、受け入れ社会への移住深度や、移民と送り出し社会との紐帯構築の程度により、居住空間と社会空間には様々なバリエーションが存在する。また、墨米移民が多いテキサス、カリフォルニア、ニューヨーク、ボストンなどにより地域的差異も存在する。実際に「共創的社会景観」を提示する際、そうした個別的故事りを含む不可視の社会空間と、結果として現れる可視的景観を同時に示していくことで、米国のメキシカン・コミュニティと伝統的社会（故郷）との密接な双方向影響下の中で作られる「共創的社会景観」を捉えることができる。

(4)可視的景観を分析する枠組み

「共創的社会景観」の可視的文化表象を分析する枠組みとして、以下の4分類を軸にした方向性を提示した(表1)。まず、(1)持続的景観としては、教会、スーパーマーケット、レストラン、

ナイトバー・ダンスホールが挙げられる。空間的には物理的な場所を占め、時期については比較的長期にわたって持続的に存在する。また、一定程度時間の制限はあるが、自由に出入り可能である。こうした景観は、移民第一世代が初期の景観を作り上げて、徐々に米国の受入れ程度に従って文化の混雑性が見られる景観へ変化していく事例である。(2) 定期的景観としては、宗教行事、祝祭日、フリーマーケット・スワップミーティングがある。空間的には物理的な場所を占め、時期については定期的に同じ場所で開かれるため、物理的に存在していない時期でも景観として認識可能である。こうした景観は、経済性・娯楽性を軸にしながらかその担い手の世代が代わるに従って、伝統的なメキシコ像から変遷していく事例となる。(3) 一時的景観としては、ストリートベンダー、音楽イベント、スポーツイベントなどがある。空間的には物理的な場所を占めるが、時期については不定となり、その場限りの景観が造られる場である。こうした景観も上記と同様に、経済性・娯楽性を軸にしながらか、その担い手の世代におけるメキシコ像が表出する。また、イベントの開催時期や政治的要因によっては、ナショナリズムの高まりからより伝統性の強い形の表出もあり得る。(4) 動的景観としては、メキシコ系の日雇い労働者、観光客、墨米移民自身が集まる光景など空間的に固定しない動的な景観であり、(1)～(3)と重層しながら認識する景観といえる。社会景観は、個別の移民の社会的実践の集合体であり、広域的に形成される様相を捉えていく必要がある。そのため、時間的、空間的位置の混雑の中で認識していくことが必要である。

表 1: 社会景観の 4 形態

形態	対象	空間性
(1) 持続的景観	教会 スーパーマーケット レストラン ナイトバー ダンスホール	物理的な場所を占め、長期にわたって存在することで同一の場所で景観として認識
(2) 定期的景観	宗教行事 祝祭日イベント フリーマーケット スワップミーティング	定期的に同じ場所に存在することで、不在の時も景観として認識
(3) 一時的景観	ストリートベンダー 音楽イベント スポーツイベント	空間的には物理的な場所を占めるが、時期は不定となり、その場限りの景観として認識
(4) 動的景観	労働者・観光客などの群衆	空間的に固定しない動的な景観、また(1)～(3)と重層しながら認識

(2022, 筆者作成)

本研究は、メキシコと米国を頻繁に往復する墨米移民独自の“旅的”居住観を通して、居住空間・社会空間の双方に「想像的伝統」と「創作的伝統」の具体的形成を促す、墨米移民の米国内の文化実践に着目するものであった。調査手法の特徴としては、墨米間の移民に関する研究において、移民研究、文化人類学、建築学の視点を取り入れながら研究を実施した。調査では、メキシコ地方都市で調査した結果を今回の成果と組み合わせ、米国に居住する墨米移民が抱えるメキシカン・アイデンティティの源泉としての想像的伝統が、伝統的社会(故郷)との頻繁な接触により変容しながら、米国でどのような文化的実践と現実空間として再構築されているか、その特徴を明らかにした。

本研究の成果としての、研究発表と研究論文は以下の通りである。

<研究発表>

- ① 2019 年開催の米国応用人類学会 SfAA2019 (Society for Applied Anthropology)にて口頭発表

<論文>

- ① 2022 年度に紀要に研究論文を投稿

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 牧野冬生	4. 巻 29
2. 論文標題 墨米移民における故郷協会（HTAs）と社会景観分析に関する試論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駒沢女子大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 199-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Fuyuki Makino
2. 発表標題 Creation of New Social Space of Mexican Immigrants in the United States: Religious Space to Entertainment Space.
3. 学会等名 Society for Applied Anthropology（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	平井 伸治  (Hirai Shinji)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

メキシコ	メキシコ社会人類学高等研究所 北東キャンパス			
------	---------------------------	--	--	--